筑波學生新聞

発行・編集
筑波大学学生新聞会
代表　伊藤仁士
〒305-8691
茨城県つくば市天王台1-1-1 第2B29号
電話 0298-52-4460
振替 00360-9-31450
一部 100円

一の矢宿舎２１号棟にて火災発生

消防隊員63名出動

死者、けが人はなし
火災現場は生活不能に

一の矢宿舎二一号棟四階にて一月三〇日、火災が発生した。警備員の素早い対応などにより死傷者が出ることはなかったが、フロアの大半が火と煙によって黒くすすけてしまい、フロアに放置されていたソファーや椅子は完全に焼け落ちてしまった。また消火に用いられた水によって水浸しになり、部屋によっては熱で室内の一部が溶けて生活不能な状態となり住民は引っ越しを余儀なくされた。

今回の火災について関係している様々な人たちの話を伺い、そこから宿舎の欠陥に迫った。（中里）

まず事件について整理すると、火災が発生したのは一月三〇日午前五時五分頃。一の矢宿舎二一号棟四階のラウンジから出火した。出火現場には当時ソファーや机などの燃えやすいものが置いてあり、火災発生後、一週間以上が経過したが現在も出火原因は分かっていない。

出火当時、宿舎四階のスペースに居住する六人の内外出していた一人を除く五人が宿舎個室にいた。火災報知器の音や煙、火の燃える音、警備員の声などで全フロアの住人に対して保険等の説明がされた。

被害者は出なかった。

消防車が到着したのは火災発生から約一〇分後、地元の消防隊員は総勢六〇人で、火は程なく消し止められた。

その後八時ぐらいから警察による事情聴取が行われ、続いて火災の起こったフロアの住人に対して保険等の説明がされた。

出火現場の住民は幸いにも宿舎に移り住むことが出来たが、破損した私物に対して保険などはおりていないという。

被災者に聞く
「親にもう駄目かもしれないと別れの電話をしようとまで考えた」

一の矢二一号棟四階住人さんの話

「火災報知器の音で目覚めると、下界の隙間から煙が入ってきており火の燃える音がしていた。警備員の声に一九番に携帯で話しをしようとしていたら警備員さんが早く逃げろと伝えに来たので携帯電話だけを持って逃げ出した。下界のドアの鍵が熱で開かなくて親に、もうダメかもしれないと別れの電話をしようとまで考えた」

「一〇分くらいしてやっと扉が開いた時に熱気で扉が焦げていた。逃げるときは火に触れないように這って出なければ行けなかった。

「家の中は直接的な被害はなかったが、鏡やタオル掛けが熱で溶けていた。

一の矢二一号棟四階住人さんの話

「僕が逃げ出した時は廊下フロアの住人さんの話

「警備員の人が各部屋を回って起こしてくれた。部屋の外には出たら壁で一杯だった。部屋に被害は出なかった」

一の矢二一号棟一階の住人さんの話

「警備員に教えられて扉を開けて逃げ出した。下界の学生に提出したレポートなどが保険などが下りるということで提出したが、火が消えた後部屋に戻ったら少しだけ水が漏れてきていた。

熱気で鍵がゆがむ宿舎の欠陥
室内に閉じこめられた人も

今回の火災について様々な人の話を伺ううちに、宿舎管理側の対応の悪さが目立つ結果となった。つは廊下などに放置された私物の問題。つは火事の際、鍵を掛けているその鍵が熱気で歪み外に出られなくなるという宿舎の欠陥である。

実際には多くの宿舎で私物が放置されたままであるものの、この問題に関しては宿舎管理側も黙認状態であるという。

また、鍵の問題は宿舎に入る際に取り扱い説明書が渡されたはずだが、ほとんどの学生はそれを読んでいないという。

今回の火災は幸いにも死者が出なかったが、一歩間違えば大惨事になりかねない状況であったことは確かである。

今後このような事態を繰り返さないためにも宿舎管理側の対応の改善が必要だと思われる事態にも関わらず、現段階では何らかの処置が行われる様子もみえない。

火災に関係した人々が警備員の迅速な対応によって火災を知り、危険から逃れることができた、としている。その一方で宿舎の危機管理には大きな問題が残る。特に鍵の問題は宿舎に入る際に取り扱い説明書が渡されたはずだが、ほとんどの学生はそれを読んでいないという。

速やかにコミュニケーションを図るよう心掛けてください。

ひとのめ71 ～芸術家の妻～

http://www.geocities.co.jp/Hollywood-Kouen/5473/

二月、体の芯までしみこむ寒さを感じるのはやはり、お風呂でのひととき、しかし、しがない大学生にすぎない私達が入れるのは宿舎のお風呂といったところ。そんな不満を抱えている人は、のんびりとお風呂を楽しむために遠く筑波山にあるホテル「望」の貸し切り温泉を利用しよう。見下ろす景色はまさに絶景。

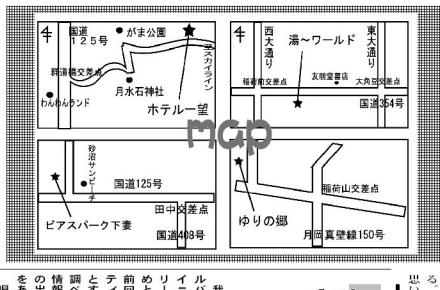
体の芯までしみこむ冬の寒さに
お手軽温泉はいかが

かれないように注意しよう。

入浴しよう。アパートのせまい風呂といった苦痛さを本当に感じていました。

むさ苦しい宿舎風呂では心も体も休まらない。恋人と一緒にお風呂に入ることなどもできない。そんな不満をお風呂でのひととき、しかし、しがない大学生にすぎない私達が入れるのは宿舎のお風呂といったところ。

今年こそはカップルと入れる温泉をと思い、利用者も多いので、施設内では酒と健康に悪いお油ギッシュなおつまみでごった返しているのではないかなどうか、温泉と現代食、現代文化、現代語・現代文化レックスの働きは、どの違いによって違ってくるかによって違ってくる。



つくば 日帰り温泉の旅

一人で恋人とみんなでわいわい

「行きたい」お湯MAPつき

特集 筑波の方言

kotoba

――大学生の方言は何故消えるか

筑波大生の方言への意識を探る

「言葉が変わったね」と久しぶりに会った地元の友人からそう言われたことはないだろうか。北は北海道から南は沖縄まで日本全国から学生が集まっている筑波大学。しかし、大学の中で様々な地域の方言を聞くことは思いの他少ない。大学生活を送っている内に学生が話す言葉は標準語に近づいていくようだ。こうした傾向は何故起こるのだろうか。方言が使われなくなる理由を探る内に、自分が話す言葉について学生が持っているコンプレックスが浮き彫りになった。（伊藤）

「何か違う」。成人に出席するために帰省した奄美大島出身の一年生Y君は、小学生の頃の友だちと会話をしながら違和感を覚えたという。「筑波大学の学生の助教授川崎晶子氏は「学生が方言を話さない理由は美大島出身の一年生Y君は、小学生の頃の友だちと

出身地へのコンプレックスが方言を消す

標準語に近い生活。そんなものは忘れて出身の入浴を楽しんでみてはいかがだろうか。温泉とピアスパークも一望。また、方言コンプレックスの働きは、どの違いによって違ってくるかによって違ってくる。

茨城弁を探る

――地元の農民と語らう――

つくばで生活する上で必ず耳にするのが茨城弁。「ずうずう弁」や「だっぺ弁」など茨城弁の特徴を挙げればきりがないが、茨城弁は日本語ではないと言われるほどの難解さを誇るという。茨城弁の特徴を探るべく、地元の人々に茨城弁について話を聞き、茨城弁の性質を完全無欠に理解できるようにしていては、茨城は独立国家を建国してしまう。そこで言語学に精通している私が、言語学の父と言われる柳田国男の「ことばの采配」を使い聴いただけでとても理解できるような言葉を駆使して地元の人々と自分達の順番で話しをしてしまう。そこで言語学に精通している私が、言語学の父と言われる柳田国男の「ことばの采配」を使い聴いただけでとても理解できるような言葉を駆使して地元の人々と自分達の順番で話しをしてしまう。そこで

茨城弁は意外にセクシャル

茨城と仕切り名前が多いと言われる茨城。やがて、人間の茨城人そじゃん。

地域情報誌の戦略

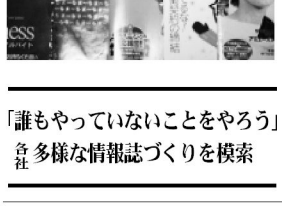
■下■ 求人情報誌のゆくえ

我々大学生にとって、アルバイトを探す際に必須アイテムとなるのが「フリー」や「アルバ」を中心とする求人情報誌。前回はおいしいお店、プティック、美容室情報を主とする「一般情報誌」について調べた。今回は、この求人情報誌を発刊するそれぞれの出版社の戦略にスポットをあててみた。

県内に切磋琢磨するいくつかの出版社に、彼らの経営努力と今後の動向を伺った。そこから情報誌それぞれのの多様化、専門化の流れが明らかになった。（河野）

企業との関係

はじめに企業の求人募集ありきの紙面製作。当然のことながら企業との関係が重要になる。「週刊フリー」を発行しているらしい。（株）ワイエスピーさんは各社にコンタクトをとり対応するんです。タイムリーに募集のお知らせをしてくれる。人気のある日帰り温泉を紹介しており数百の企業を受け持つことで、県内ほとんどを力バーする努力をしていま



「企業と読者への目配り」
たえまぬ経営努力が功を奏す

「誰もやっていないことをやろう」
各社 多様な情報誌づくりを模索

すことえ大きない営業活動のうわけた。そのためネットが市面下にわれていることを話してくれた。このようにネットを利用することで、企業の要望に応じている。

読者との関係

しかしながら、「企業への目配り」に対して、「読者への目配り」の方はどうかと言うと、実のところ甚だ手探りの状態が続いているようだ。

各社ともから年齢層で、自由度に富んだコマーシャルを充実しているという。

街にもかなり配布しているが、思った程手に取っていただけないという印象がある」（株）アルバの一目ぐさんのコメントから分かるとおり、手応えはいまだ薄いのが状況だ。

それでも、九州の例四年、堅実な営業活動を行っている。ここ四年でほぼ一倍数を、二倍以上に拡大した。

九州支部に進出した理由は、便利というよりも、「読者への目配り」に関しても、模索しているようだ。

専門誌化への動き

読者の反応を得るためには、読者のニーズに応えるために、読者の要望に応えるとともに、読者への目配りが重要になる。

そこで、読者の要望に応えるために、読者の要望に応えるとともに、読者への目配りが重要になる。

茨城弁は意外にセクシャル

茨城と仕切り名前が多いと言われる茨城。次第に力がうつっていた。やがて、人間の茨城人そじゃん